



▶ヘーゼルナッツの畑で岡田代表(右)と、長男の晃治さん。

**週刊・無料**

2020年 第1781号

**9月25日(金)**

CONTENTS

③面=しゃべくり箱  
 「秋の七草・秋の花」など

旬果旬彩



【シャコバサボテン】ブラジル原産。砂漠など乾燥した地域で育つ一般的なサボテンとは異なり、霧の多い森林で育ちます。肉厚な葉はまさにサボテンですが、花を咲かせる点はサボテンの中でも珍しい。10月～1月ごろの冬に咲きます。※撮影協力:エスパス

株長野県中日サービスセンター  
 〒395-0074 飯田市松川町2211 メルセンビル1F  
 TEL 0265-53-0555 FAX 0265-53-1221  
<http://www.nagano-chunichi.com>

中日新聞・ホームニュースのお申込みは☎(0265) 53-0555 中日ホームニュースまで

**株式会社 フル里農産加工 信州を“ヘーゼルナッツの里”に 植栽全県に広がり**

■苗はイタリアから取り寄せ。1本税別5,000円(2年もの)。圃場見学は月・水・木・金曜日。各日午前10時半と昼12時半の1日2組まで ■長野市上駒沢920、問合せは☎026-251-3334

農家の高齢化や後継者不在で、近年社会問題化している農地の荒廃化・遊休農地の拡大。こうした農地の救世主として注目されているのが、洋菓子に使用される「ヘーゼルナッツ」です。無農薬、無消毒、無肥料、無灌水栽培で下草を刈るだけの作業で育ち、晩夏収穫時に落ちた実を拾い集めるだけの省力農業で農地維持を実現します。現在、日本に輸入されるヘーゼルナッツは95%がトルコ産、残り5%がイタリア産等。需要の拡大から年々価格が高騰しています。

国産化を目指す長野市のフル里農産加工(岡田浩史代表)。岡田さんはかつて輸入商社に勤務し6次産業化プランナーとして活躍。出身の長野と気候が近いトリノ近郊に出張の際、雪の中で元気に育つヘーゼルナッツを見て、長野に適した次世代農産物と確信。100年後の長野の農業を変えたいと30年勤務した会社をリタイヤし2014年に起業しました。

岡田さんは「リンゴに替わる特産品として、6次産業化をスタンダードにするのがヘーゼルナッツ栽培」と語ります。

この取り組みはテレビ朝日『人生の楽園』で紹介され、伊那谷では飯田市、駒ケ根市、阿智村、伊那市などで既に栽培。今秋岡田さんが輸入する苗木で泰阜村、箕輪町でも始まります。苗木の申込締切は9月末。興味のある方は左記へ。